

区分・種別	国宝(工芸品)		
名 称	むらさきあやおどしよるい 紫綾威鎧 1領	おおそでつき 大袖付	
所 在 地	今治市大三島町宮浦		
所 有 者	大山祇神社	管 理 者 団 体	
指定年月日	明治34年3月27日 国 昭和28年3月31日 国宝		
解 説	胴高（胸板から草摺裾^{くさずりすそ}まで）67.4cm、胴回り（発手にて）94.2cm、大袖高さ43cm、同幅30.6cm、鎌倉時代初期の作である。 胴は、黒漆塗りの幅広い平札^{ひらざね}で鉄と革を1枚まぜに横綴^とじしている。威毛は、麻布心を紫地小葵文綾^{こあおいもんあや}で包み、縄目に毛引きに威している。耳糸^{うなめ}、畦目^{たくぼく}は啄木打ちの組糸^{ひしぬい}、菱縫^{さるなめし}は紅染の猿轡^{さるなめし}が施してある。草摺は脇楯とも4間5段下りで前後の裾板はおのおの2間に分かれている。金具回り韋所^{かわどころ}は襷入獅子花円文^{たすきいりしし はな まるもん}の染韋で包み、化粧板等随所に鍍金地^と坂、車輪文金物を打った大袖付の鎧である。 総体に古風な様式を示し、平安時代の形式に近いが、形が端正な点など鎌倉時代の新風を感じさせる。 綾威鎧はこのほか厳島神社の浅黄綾威鎧と当社の萌黄綾褌取鎧^{つまどり}などと胴丸にも現存するが、逸品がきわめて少ない。神社の記録では、源頼朝の奉納となっている。		

